

10.3.5 教育の質の向上

【評価項目 6-5-1】 教育改善への組織的な取り組み（教育・研究指導の改善）

- （必須要素）教員の教育・研究指導方法の改善を促進するための組織的な取り組み状況
- （必須要素）シラバスの作成と活用状況
- （必須要素）学生による授業評価の活用状況
- （選択要素）学生満足度調査の導入状況
- （選択要素）卒業生に対し、在学時の教育内容・方法を評価させる仕組みの導入状況
- （選択要素）高等教育機関、研究所、企業等の雇用主による卒業生評価の導入状況

<開設時に設定した目標>

法科大学院における教育の内容及び方法の改善を図るために、例えばFD委員会などが設置されて、継続的かつ組織的に研究や研修などを行う。

1. シラバスの充実
2. 全科目での学生による授業評価の実施
3. 授業評価の結果の活用も含めたファカルティ・デベロップメント活動の充実

（現状の説明）

現在教員6名で構成されている自己評価委員会があり、いわゆるFD活動、授業評価および自己点検・評価の問題に取り組んでいる。本研究科においては、法曹養成という高度専門職業人の養成に特化した専門職大学院（法科大学院）としての性格上、伝統的な法学教育に加えて実務家教員による実務教育を実施しており、自己評価委員会においては、このような教育内容に関する方法の改善策等について取り組んでいる。

その主な活動としては、毎月1回以上の会議を開催するなどしてその時々の問題点を討議し、委員相互間の問題意識の共有化などを図っている。そしてこの委員会で取り上げられたとくに重要と思われる問題については、すべての教員が参加して行われているカリキュラム委員会においても諮られ、すべての教員がその問題点を共有化するよう配慮している。その他、学生の授業評価で評価の高かったと思われる講義科目をピックアップして、委員による授業参観を実施し、その感想などを出し合って分析につとめている。

学生による授業評価については、1セメスターにつき、その半ばにさしかかった時点ですべての学生に対して、自由記述式のアンケートを実施している。さらに最終の授業時間時には正式な授業評価といえるアンケート調査を実施している。この評価結果は、主に数値データについてはすべての部分の評価結果を、インターネットおよび冊子にしてロースクール内に公開しているし、全体にわたる分析については自己評価委員会による検討と分析を加えた上で、これも小冊子の形で全学に公開している。

以上の学生評価と同時にすべての教員に対しても1セメスターの自己の講義に関するアンケートを実施しており、その結果も上記の冊子にあわせて掲載している。

また、教員に対するFD研修として、各所で実施される教育方法改善研修プログラムに派遣するほか、教材開発・授業参観および教育（授業）方法に関する主体的取り組みを奨励している。

学生の授業評価は、すでに2004年度中に、春学期と秋学期の最終の授業終了時に授業

アンケートが実施され、あわせてすべての教員に対する自己評価も実施された。学生に対するアンケートについては、司法研究科自己評価委員会編の「授業評価アンケート結果報告書」として本研究科の教職員及び学生に公開されている。

授業評価アンケートの結果については、自己評価委員会において分析・検討の結果、後述のような改善にむけての具体的方策の実施が検討された。

(点検・評価の結果)

まだ法科大学院が開設して1年たらずなので、授業方法等についてはすべての教員がなお手探りの段階であるが、授業調査自体はすでに2度実施しており、その結果等をふまえて教育方法の改善のために活用されつつある。

授業に関しては、春学期、秋学期の授業終了後に受講生による授業評価を実施しているが、この授業評価について、授業評価結果に基づく教育方法に関する研修会を毎学期終了時に実施することや、授業評価で特に優れた教員についてこれを表彰すること、さらに授業評価で芳しい結果が示されなかったものについては、研究科長が面談し、改善を要請し、具体的方針を確認することなどが制度化されている。

自己評価委員会において、上記授業アンケート等の結果の分析や検討がなされた結果、2005年度ではつぎのような改善にむけての具体策が実施される予定である。

1. 授業アンケート項目の見直し。検討の結果、2005年度春学期の授業アンケートの項目をより適切なものに修正を加えた。
2. 授業参観の実施。2004年度の授業評価においてすぐれた評価を受けた授業について自己評価委員会委員を中心として、全教員も参加可能なかたちでの授業参観を実施する予定。とくに双方向の授業にすぐれた他研究科の外部講師招聘による研修会の実施。

(改善の具体的方策)

2005年度春学期に若干の授業について授業参観を実施し、秋学期においても授業参観週間を設け、全教員、全授業を対象に授業参観を実施の予定である。さらに、外部講師を招いて教育方法に関する研修会を実施した。

10.3.6 学位授与・課程修了の認定

【評価項目6-6-1】 学位授与

- (必須要素) 修士・博士の各々の学位の授与状況と学位の授与方針・基準の適切性
- (必須要素) 学位審査の透明性・客観性を高める措置の導入状況とその適切性
- (選択要素) 修士論文に代替できる課題研究に対する学位認定の水準の適切性
- (選択要素) 学位論文審査における当該大学(院)関係者以外の研究者の関与の状況
- (選択要素) 留学生に学位を授与するにあたり、日本語指導等講じられている配慮措置の適切性

【評価項目6-6-2】 課程修了の認定

- (必須要素) 標準修業年限未満で修了することを認めている大学院における、そうした措置の適切性、妥当性